

# 2 中学部

## 中学部 1年 生活単元学習 略案

日 時：令和5年7月11日（火）  
 時 間：9：20～11：20  
 場 所：リンク村山など  
 指導者：西塚 友美

### 1 単元名 「村山しゅうゆうツアーオンにかけよう」

#### 2 本時の目標（対象生徒）

- (1) 支援者の話や説明等を聞き、活動に必要な情報を理解することができる。（知・技）
- (2) 集団行動のルールや公共施設の利用マナーを守ることの大切さに気付くことができる。  
（思・判・表等）
- (3) 仲間とペースを合わせて、目的の場所まで移動しようとすることができる。（学・人等）

#### 3 単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
H・K	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発話が止まらず、支援者の言葉が聞こえていないことがある。</li> <li>・事前に文字で約束ごとを提示されると、その約束を守ろうとする意識が見られる。</li> <li>・教師からの発問等に、自分の言葉で返答することができる。</li> <li>・気になる物事があると、集団から離れてしまうことがある。</li> </ul>	<p>☆文字で書かれた約束ごとを自分から見て確かめ、守ろうとすることができる。</p> <p>☆「～だから。～するため。」など、ルールやマナーを守る理由を考えることができる。</p> <p>☆列の先頭を歩く意識をもち、集団で目的の場所へ向かうことができる。</p>

#### 4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「視覚支援」では、一つ一つの約束ごとが分かりやすいように、付箋紙で分けて提示するようとする。</li> <li>・「繰り返し」「自己評価」では、“生单 今日のやくそく”を活用し、これまでの頑張りや課題を可視化して次につなげられるようとする。</li> <li>・「理由づけ」では、一つ一つの約束ごとがなぜ必要なのか、端的な理由も文字で提示するようとする。<br/>(例 みんなが先生の声を聞くため)</li> <li>・「役割」では、移動時の整列で先頭を歩くようとする。本人も含め後に続く仲間が目的地にたどり着くことができるよう、先頭の役割を意識したり、集団で行動することを意識したりできるような言葉掛けを行うようとする。</li> </ul> |
|--|

#### 5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
9：20	1 バスに乗る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習中の約束を守ることができるように、朝の会等で再度確認をしておく。</li> </ul>	<p>☆約束を守って校外学習ができるように、“生单 やくそく振り返りシート”を用いて、これまでのことを振り返り本時の励みにする。</p>
9：30	2 車窓から村山市を見学する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が調べたことをもとにしながら、興味関心をもって施設の車窓見学ができるように言葉掛けや説明、クイズ等を行う。</li> </ul>	<p>☆バス乗車のルールを守ることができるように、“生单約束ごと振り返りシート”を手元に置いておく。</p>

10：10	3 リンク村山に行く ①見学 ②トイレ、水分補給 ③集合写真 ④アリーナで遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの事前学習が活かされるよう、適宜約束ごとを再度確認したり、考えさせる発問をしたりながら活動を進めていく。</li> <li>アリーナ利用時、一般客の方と場所や遊具等を譲り合ったり、気持ちの良い挨拶を交わしたりしながら活動できるようにする。</li> </ul>	☆列の先頭で歩き続けることができるよう、事前学習と同じ言葉掛けを行ったり、H・Kが定位置に戻るまで可能な限り待ったりするようにする。
11：10	4 バスに乗る	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習の振り返りについて、話をする。</li> </ul>	
11：20	5 帰校		

## 6 単元を通した生徒の様子・変容

- 「生单 今日のやくそく」と題したシートで、毎時間約束ごとを提示するようにした。学級担任が日常生活の指導等で行っている手立てをもとに、本単元にそった形で提示するようにしたことで、授業前に約束を付箋紙の文字で提示されることについて自然に受け入れることができた。
- 授業後に振り返りの場面を設け、シールを用いて評価するようにしたことで、まとまって歩く練習の際は、活動後に、自分から教師に評価シールを貼ることを求めた。活動時、列から離れることなく先頭を歩き続けることができた

## 中学部1年 作業学習（紙グループ）略案

日 時：令和5年9月13日（水）  
 時 間：10：40～11：50  
 場 所：中学部作業室①（紙グループ）  
 指導者：T1 梶川 浩伸

### 1 単元名 「たてとく祭に向けて作ろう」

#### 2 本時の目標（対象生徒）

- (1) 型抜き器の正しい使い方について知ることができる。（知・技）
- (2) 安全に気を付けて型抜きをしたり、正しく検品をしたりすることができる。（思・判・表等）
- (3) 決められた作業に集中して取り組もうとする。（学・人等）

#### 3 単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
H・K	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発話が止まらず、支援者の言葉が聞こえないことがある。</li> <li>・事前に文字で約束ごとを提示されると、その約束を守ろうとする意識が見られる。</li> <li>・教師からの発問に、自分の言葉で返答することができる。</li> <li>・気になる物事があると、席から離れてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆文字で書かれた約束ごとを自分で見て確かめ、守ろうとできるようになる。</li> <li>☆「～だから。～するため。」など、作業のルールやマナーを守る理由を考えることができる。</li> <li>☆発話したり離席したりせずに作業を続けることができる。</li> </ul>

#### 4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

- ・「視覚支援」では、作業室前面のホワイトボードに本人の顔写真を使って作業時間、作業内容を示し、いつでも確認できるようにする。作業の約束に注目することができるよう、イラスト入りの○×のクイズ形式のプリントを使用し、作業の前に確認できるようにする。
- ・「繰り返し」「自己評価」では、作業の約束を守ることができたか、○×回答形式のプリントを使用し、活動の振り返りができるようにする。
- ・「理由づけ」では、一つ一つの約束ごとがなぜ必要なのか、端的に文字で提示するようとする。
- ・「役割」では、本人の興味関心、適性を考慮した作業内容を提示する。型抜きの作業では、どの型の型抜きをするか、どの色の色画用紙を使用するか等本人が選択できる場を設ける。型抜きをした物をスムーズに並べ、検品することができるようマス目入りの用紙を準備する。

#### 5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
10：40	1 始めの挨拶をする。  2 今日の作業時間、作業内容、作業の約束を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前面のホワイトボードに作業時間、仕事内容を示す。</li> <li>・型抜きや型抜きした物の検品の作業を依頼する。</li> <li>・作業の約束を確かめるクイズ形式のプリントを使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆本人が見やすい場所に作業時間、作業内容を提示する。</li> <li>☆本人の興味関心、適正を考慮し、型抜き、検品の作業を依頼する。</li> <li>☆主体的に作業の約束を確認できるようにイラスト入り、○×形式のプリントを活用する。</li> </ul>

10：50	3 作業①を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・型抜きの型、色画用紙の色、型抜きの目標個数など本人が決定する場を設ける。</li> <li>・型抜きをした紙をマス目入りの用紙の上に並べていくように話す。</li> <li>・型抜きをした紙で欠けているものがないかチェックをし、欠けている物は、指導者に渡すように話す。</li> </ul>	<p>☆型抜きの型、色画用紙の色、型抜きの目標個数など本人に決定させる事項を増やし、主体的に作業に取り組むことができるようとする。</p>
11：10	4 休憩をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標個数を用紙に並べた時点で休憩に入るように話す。</li> <li>・水分補給やトイレなどを済ませるよう声掛けをする。</li> </ul>	<p>☆本人のこれまでの作業の実態を見て、意欲が継続できそうな目標個数を設定する。</p> <p>☆型抜きした物が数えやすく並べやすいようにマス目入りの用紙を使用できるようにする。</p> <p>☆マス目入り用紙の目標枚数を達成した時点で休憩に入ることを前もって伝えておく。</p>
11：20	5 作業②を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業①と同じ流れで作業を進めるように話す。</li> </ul>	<p>☆作業①と同じ流れの作業を仕組むことで、安心して落ち着いて作業に取り組むことができるようとする。</p>
11：40	6 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の約束を守ることができたか、プリントを使用し、自己評価をさせる。</li> </ul>	<p>☆主体的に振り返りを行うことができるよう〇×形式のプリントを活用する。</p>
11：50	7 終わりの挨拶をする。		

## 6 単元を通した生徒の様子・変容

- ・本人の興味関心、適性を考慮し、「型抜き」と「検品」の作業を依頼した。型抜きしたものを作業用紙に並べることにより、「時間内に100個型抜きして並べる」、「並べた物の中から不良品を見つけて探す」という明確なめあてをもち、立ち歩くことなく、作業に取り組むことができた。(作業学習初期ということもあり、本人の興味関心、適性を考慮した作業を依頼したが、将来的なことを考えると、そうではない作業を依頼する必要もある。)
- ・作業前に作業の約束シートを使い、約束を確かめたが、作業中のアナウンスを止めることができた。アナウンスをしている時、作業の約束シートを見せて、話をしないことを確認したが、効果がなかった。作業の時、型抜きをした物の数を声に出して数えるなどアナウンスを止めるための他の手立てを講じる必要がある。
- ・型抜きをした小さな星を指先でつまむときやマス目に1個ずつ置くときなど、作業に集中しなければならない時、アナウンスが止まる気がした。マス目を付けた紙で型抜きをするなど集中するための工夫を考える必要がある。
- ・将来につなげるために、作業中、「できました。」や「お願ひします。」などの報告や相談をする場面を設ける必要がある。

中学部「電車で GoGo グループ」まとめ	対象生徒：H・K
研究メンバー	西塚友美 梶川浩伸 折原彩乃

## 1 主題的に活動するために行った支援と手立ての工夫

### 「視覚支援」

- ・約束ごとが分かりやすいように、一つ一つ付箋紙で分けて提示する。
- ・授業開始前に、約束ごとに注目することができるよう、イラスト入りの○×のクイズ形式のプリントを使用する。
- ・作業時間や自分の作業内容をいつでも自分で確認できるように、ホワイトボードに本人の顔写真を使って示す。
- ・少ない言葉掛けで作業に取り組むことができるよう机上に、注意すべきことをイラストや文字で示したカードを置く。

### 「理由づけ」

- ・一つ一つの約束ごとがなぜ必要なのか、端的な理由も文字で提示する。

### 「役割」

- ・列の中での自分の役割を意識したり、集団で行動することを意識したりできるように、移動時の整列で先頭を歩くようとする。
- ・本人の興味関心、適性を考慮した作業内容を提示し、自分の仕事に向き合うことができるようとした。型抜きの作業では、どの型の型抜きをするか、どの色の色画用紙を使用するか等本人が選択できる場を設けて、自分の役割を担う気持ちにつなげる。

### 「繰り返し」「自己評価」

- ・これまでの頑張りや課題を次につなげられるように、“今日のやくそく”を可視化して伝えた。
- ・授業時の約束を守ることができたか、○×回答形式のプリントを使用し、活動の振り返りができるようにする。

## 2 対象生徒の学びがどのように変わったか？

### 良かった点

- ・学級担任が日常生活の指導等で行っている手立てをもとに、どの授業でも約束ごとを提示することを継続して行ったことで、授業前に担当の教師から約束を提示されることについて自然に受け入れることができるようになった。
- ・授業後に振り返りの場面を設け、シールを用いて評価するようにしたことで、活動後に、自分から評価シートに向かうことができた。
- ・集中を要する作業内容や方法を選定することで、アナウンスを自然と止めることができた。
- ・本人が興味関心のあることや得意なことを授業に取り入れることで、自分から進んで取り組もうとする姿が見られた。

### 課題点

- ・これまで作業学習初期ということを考慮し、本人の興味関心、適性を考慮した作業を依頼してきた。今後は将来を見据え、支援者に指示された仕事内容に向き合えるように様々な活動内容や作業内容に触れていく。
- ・約束ごと（アナウンスをしない）が、状況によって守れないこともある。集団学習時や公共の場でのマナーとして、理由とともに身に付けていく。
- ・活動に必要なことを教師や仲間に伝えるなど、話したい欲を満たしながら、アナウンスを止めるための他の手立てを講じる。
- ・活動内容により集中するための工夫を考える。（例：マス目を付けた紙で型抜きした数を数えていく等）
- ・将来を見据え、作業中、「できました。」や「お願ひします。」などの報告や相談をする場面を設ける。

## 3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点

- ・アクシデントやほかの生徒からの刺激があつても、自分のするべきことに取り組むことができるようにしていく。そのために、様々な学習グループや担当教員との学習の機会を多く設けていく。
- ・予告なく、みんなの前で挨拶をする役割を与えたりして、急な活動内容にも対応できる力を身に着けていく。
- ・本人の興味関心に沿った活動内容だけ提示するのではなく、教師から指示されたことにもどんどん取り組ませていく。
- ・今年度、前期の作業学習でメモ帳づくりを行った際、アナウンスが止まらなかつた。一年間の積み重ねを経て、その作業内容でもアナウンスをしないで作業ができるのか確認してみたい。
- ・本人だけに提示する約束事ではなく、学習集団全体に提示した約束事を守ることができるようにしていく。（本人のそばで、言葉かけ等の支援は必要）

## 中学部 1年 作業学習 略案

日 時：令和5年9月28日（木）

時 間：10：40～11：50

場 所：畠、中学部学習室

指導者：T 1 伊藤 圭一

和田 朋子、高久 清子

石山 俊輝、中嶋あす香

### 1 単元名 「たてとく祭に向けてつくろう」

#### 2 本時の目標（対象生徒）

- (1) 作業内容を知り、活動に取り組むことができる。（知・技）
- (2) 適切な声の大きさを選ぶことができる。（思・判・表等）
- (3) 自分から活動しようとする。（学・人等）

#### 3 単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
N・H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草むしり等の見通しの大まかな活動や、手先を使う作業が苦手である。</li> <li>・声の大きさの調整が難しい。</li> <li>・活動の流れが分かると、自分から取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆手順表を見ながら、活動を確認することができる。</li> <li>☆活動中の声の大きさに気を付けることができる。</li> </ul>

#### 4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

- ・手順表を提示して工程を確認することで、作業の見通しをもたせ活動の意欲を高めるようにする。
- ・声のものさしを活用して、教室内では「①ねずみの声」で話すことへの意識をもたせるようにする。
- ・仲の良い生徒とのペアリングを増やすことで、活動への意欲を高めるようにする。
- ・集団意識が薄いため、役割を与えることで、集団で学習を行う意識を持たせるようにする。

#### 5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
10：40	1 始まりの挨拶 2 活動の確認	・仕事内容を確認し、活動に見通しをもたせる。	☆ホワイトボードに仕事の内容を記入し、読み上げる。
10：45	3 ファイルの記入	・集団で学習を行う意識を持たせるように支援する。	☆鉛筆回収係の役割を与えることで、集団で学習を行う意識をもたせる。
10：50	4 移動	・集団での活動意識を持たせたり、注意事項を守ったりしやすくする。	☆カードを使うことで、身支度や注意事項の確認をしやすくする。
10：55	5 作業1	・一定時間集中して活動に取り組めるように支援する。	☆手順表カードを活用することで、確認しながら作業が行えるようにする。 ☆タイマーを使用して作業時間と休憩時間の区切りを分かりやすくすることで、一定時間集中して活動できるようにする。

11：15	6 休憩	・作業時間と休憩時間の区切りをつけることができるよう支援する。	☆休憩中も作業をしたがので、①机の上を綺麗にする、②水分補給やトイレを促す。③余暇時間に使えそうな道具を用意する。等の手立てを行い、作業から離れてリフレッシュできるようする。
11：20	7 作業2	・一定時間集中して活動に取り組めるよう支援する。	☆自分のやりたい仕事を選ばせることで、一定時間集中して活動が行えるようする。
11：35	8 移動・片付け	・自分の道具や製品を、指定の場所に片付けることができるよう支援する。 ・集団での活動意識をもたせたり、注意事項を守ったりしやすくする。	☆箱やカードを用意することで、教師と一緒に片付けを行うことができるようする。
11：45	9 振り返りの記入	・教師と一緒に振り返り、日誌に記入する。	☆カードを使うことで、身支度や集団での移動をしやすくなる。
11：50	10 終わりの挨拶	・鉛筆回収係の役割を与えることで、集団への意識をもてるようする。	☆振り返りをしながら、良かった点や頑張った点を認め、次の作業に繋げていく。

## 6 単元を通した生徒の様子・変容

- ・単元を通してえんぴつ集め係を行ったことで、依頼すると自分の役割を全うすることができた。
- ・単元を通して声のものさしを活用したことで、話を聞くときは「ねずみの声」、室内での作業中は「うさぎの声」、外での活動中に先生を呼ぶときは「ぞうの声」など、活動内容に応じて声の大きさを選ぶことができるようになってきた。
- ・単元を通して手順表を活用していたので、見通しをもって活動することができた。ただし、今回の授業では仕事の内容自体が簡単だったこともあり、手順表を確認していなかった。手順表だけでなく、完成品の写真提示や教師の模範でも大丈夫なように思えた。
- ・単元を通して、研修や出張等で教師が不足している中の活動だった。その結果、個々にしっかり対応することができなかつた。

中学部 N.Hグループまとめ	対象生徒：N.H
研究メンバー	伊藤圭一、石山俊輝、中嶋あす香

### 1 主体的に活動するために行つた支援と手立ての工夫

- ・手順表を提示して工程を確認することで、作業の見通しをもつことができるようにして、活動の意欲を高めるようにする。
- ・声のものさしを活用して、教室内では「①ねずみの声」で話す意識をもつことができるようとする。
- ・仲の良い生徒とのペアリングを増やすことで、活動への意欲を高めるようとする。
- ・集団意識が薄いため、役割を与えることで、集団で学習を行う意識をもつができるようとする。



### 2 対象生徒の学びがどのように変わったか？

良かった点 〈対象生徒関連〉	課題点 〈対象生徒関連〉
<p>・対象児をはじめ、どの生徒も「10個入れる容器の準備」、「作業内容で場所を分ける」などの工夫で、やることが分かりやすく、自分から時間いっぱい活動できていた。分かりやすく、できる活動なら意欲的に頑張る生徒たちだと再確認できた。</p> <p>・大きな声を出す場面はなく、教師にお願いする際にもやや小さめの声で言っていた。休憩に声を出して絵本を読んでいたときが一番大きかったが、それも普通の大きさで、これまでの指導が生きていると感じた。</p> <p>〈全体〉</p> <p>・最後の成果を見せて発表する場面はよかったです。みんな嬉しそうだった。達成感がもてたと思われる。</p>	<p>・どうがらしを詰める手順表はほとんど見ていない。活動が簡単で見る必要がなかったのでは。すべてに一つずつ入っている最後の写真だけで十分か、それすらも見る必要がなかったかもしれない。新しい作業の場合、難しい作業でなければ、教師が一連の活動をやって見せるだけでいいかもしれません。</p> <p>〈全体〉</p> <p>・みんな意欲的だったので、作業しにくい大きなビニール手袋がもったいなかった。結構床に落としてしまい、それも袋詰めになってしまっていたので、衛生面の指導をしっかり行う必要がある。</p> <p>・様々な工夫で生徒は自分で活動できていたが、それでも教師一人で必要な対応をするのは大変だった。</p> <p>・たてとく祭で買ってくれる人を意識して丁寧に作業しようとする意識をもつことのできる言葉掛けができればよかった。</p>



### 3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点

- ・継続することの大切さ。今後の生活に生かすことができる、身に付くための指導を積み重ねる。
- ・見通しをもつことの大切さを踏まえた指導をする。
- ・どんな場所や場面でも対応できる力を身に付けることのできる指導を考える。
- ・対象生徒のタイマーを時計に変えてみるなど、実際の生活に生かすことできる方法を提示する。

## 中学部 2年 生活単元学習 略案

日 時：令和5年10月3日（火）  
 時 間：10：40～11：30  
 場 所：中学部2年1組教室  
 プレイルーム  
 指導者：T1 小野美賀子

### 1 単元名 「たてとく祭がんばろう」

### 2 本時の目標（対象生徒）

- (1) たてとく祭の開祭式の流れや自分の役割を覚え、進行練習をすることができる。（知・技）
- (2) 自分で気を付けたいことやがんばりたいことを考えることができる。（思・判・表等）
- (3) 友達と協力して進行練習に取り組もうとする。（学・人等）

### 3 単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
I・H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めてのことには尻込みをして取り組もうとしない。</li> <li>・やりたいと思ったことでも友達に譲ってしまうことがある。</li> <li>・経験したことや分かっていることなどには、自信をもって積極的に取り組むことができる。</li> <li>・話すときには早口になることが多い。</li> </ul>	<p>☆「やりたいです。」「がんばります。」と自分で伝えることができる。</p> <p>☆自信をもってはっきりした口調で開祭式の進行をすることができる。</p>

### 4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

- ・やりたいと希望した係をなるべく叶えられるようにする。
- ・負担感を減らせるように、友達と一緒に取り組めるようにする。
- ・友達の考えなどを参考にできるように、板書するなどして共有できるようにする。
- ・目標をもって取り組めるように頑張りカードを用意する。自己評価をして振り返り、次時につなげられるようにする。
- ・相手意識をもてるよう、家族に招待状を書く時間を設定する。
- ・意欲をもって取り組めるように、保護者に応援メッセージを依頼する。

### 5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
10：40	1始まりの挨拶  2今日の活動を知る。 「開祭式の練習をしよう」  3自分の目標を考える。		
10：45	4係ごとに分かれて、練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表された考えを板書する。</li> <li>・誰に聞いてもらうのかを確認する。</li> <li>・自分の目標を決めてがんばりカードに書くようにする。</li> <li>・係ごとに担当教員が付いて練習をする。</li> </ul>	<p>☆友達の考えなどを参考にできるように、板書して共有できるようにする。</p> <p>☆自分の目標を意識できるように、がんばりカードを用意する。</p> <p>☆自信をもてるよう良いところを称賛する。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>良いところを称賛し、気を付けたほうがいいところも伝える。</li> </ul>	
11:05	5 プレイルームに移動して通しで練習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>席の場所を決める。</li> <li>動きや話すことなどを確認しながら、開祭式の流れを1回通してやる。</li> <li>時間があれば、もう1回行う。</li> </ul>	
11:20	6 教室に戻って振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員と一緒に振り返り、がんばりカードに記入する。</li> <li>全体的に、良かった点、次にがんばってほしい点を伝える。</li> </ul>	☆振り返りをして、良かった点や頑張った点を認め、称賛する。 ☆次の時間も頑張ろうという気持ちをもてるようにする。
11:30	7 終わりの挨拶		

## 6 単元を通した生徒の様子・変容

- 好きな友達と一緒に、やりたい係をすることになり、毎回意欲的に活動に取り組むことができた。
- 「友達と一緒に声を出す」というめあてを自分で考えた。そのためにどうしたらいいのかを教師と一緒に考え、また、友達にもそれを伝えて一緒に練習することができた。
- 教師の顔を見ながら、「がんばります。」と自分から言うことが多かった。また、「聞こえましたか。」と教師に聞いたり、「がんばりました。」「校長先生、楽しかったです。」と自分から伝えたりすることが増えた。
- 称賛を繰り返したことで自信を付け、進行係として話すタイミングをつかむために、次第めくりの友達の動きをしっかりと見届け、教師の支援なく自分で進められるようになった。

## 中学部 2年 作業学習（布グループ）略案

日 時：令和5年6月30日（金）  
 時 間：10：40～11：50  
 場 所：中学部作業室②（布グループ）  
 指導者：T1佐藤 知子

### 1 単元名 「バラ祭りに向けて作ろう」

#### 2 本時の目標（対象生徒）

- (1) 使用する道具の正しい扱い方について知ることができる。（知・技）
- (2) 作業の安全性や衛生について自分で気付くことができる。（思・判・表等）
- (3) 仲間と一緒に集中して作業に取り組もうとする。（学・人等）

#### 3 単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
I・H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何事にも自信がなく、初めてのことにはなかなか取り組もうとしない。</li> <li>・経験したことには、自信をもって積極的に取り組むことができる。</li> <li>・早口でしゃべり続け、落ち着いて静かに作業することが難しい。</li> <li>・自分のペースで行動し、仲間の様子に気付かずせかしてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆自分からコースターのキットや糸の色を選ぶことができる。</li> <li>☆「もっと作りたい。」や「○個作りたい。」など、意欲的に取り組もうとする。</li> <li>☆製品を完成させ、「発表したい」とつぶやき、自信をもつことができる。</li> </ul>

#### 4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

- ・材料や道具の正しい使い方の見本を示し、安全に気を付けて作業ができるようにする。
- ・バラ祭りへの納品を通して買い手の事を意識させ、衛生に気を付けることができるようとする。
- ・コースターのキットや糸の色を選べるようになり、興味関心を持たせる。
- ・見本を見せながら、うまくいかないときの理由や正しいやり方を伝え、正しい並み縫いについて自分で気付くことができるようとする。
- ・その日の作業の最後にできた製品を発表する機会を設定し、次時の意欲付けにする。
- ・仲間の製品を紹介し、仲間の頑張りに目を向けたり、自分もやってみたいと意欲付けにしたり、色選びの参考にしたりできるようとする。
- ・納品では、責任を持って行動できるように、持っていく製品を分担したり、ラッピングをしたり、可能な範囲で、売り場で値段付けの経験ができたりするようとする。

#### 5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
10：40	1始まりの挨拶 2今日の仕事を知る 3ファイルに仕事内容と目標を記入する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事内容をしっかりと確認し、見通しが持てるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ホワイトボードに、仕事内容を記入しておく。</li> <li>☆前時までにできていることを一緒に確認し、いくつか例を挙げて自分で目標を立てることができるようとする。</li> </ul>
10：45	4作業1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キットや糸を選べるように、十分な数の材料を準備しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆納品時を思い出すように声掛けし、意欲付けにする。</li> <li>☆「糸ください。」と依頼があったときは、「何色がいいですか。」と声掛けし、どんな製品にしたいかイメージでき</li> </ul>

			るようとする。 ☆選んだキットや糸の組み合わせ、出来栄えを評価し、意欲付けにする。
11：10	5休憩	<ul style="list-style-type: none"> <li>失敗したときや困ったときは、教師に声をかけ、報告する。</li> </ul>	☆正しい言葉遣いやタイミングよく報告できないときは、声がけして促したり、見本を示したりする。
11：20	6作業2  7掃除	<ul style="list-style-type: none"> <li>休憩中は、作業をせずに体を休めることができるように声がけする。</li> <li>作業1の続きをする。</li> <li>仲間と協力して、掃除をする。</li> </ul>	☆休憩中もつい作業をしようとしてしまいがちなので、メリハリや気分転換等休憩の必要性を伝え、椅子に座って話をしたり体を休めたりする練習をする。 ☆時間になったらスムーズに作業に取り掛かれるように、声がけをする。
11：40	8ファイルに振り返りを記入する	<ul style="list-style-type: none"> <li>記入、点検が終わったら、係の仕事の鉛筆回収をする。</li> </ul>	☆仲間の作った製品を紹介し、デザインの参考にしたり、自分も頑張ろうという意欲付けにしたりできるようする。 ☆きれいになって気持ちがいいことに気付くような声掛けをする。
11：50	9終わりの挨拶		☆書いている人をせかしてしまう場合は、状況に気付かせ待つように声がけをする。 ☆「うまくいった。」「できた。」「発表したい。」などのつぶやきを拾い、作業の終わりに発表できる場を設け、次時への意欲付けにする。

## 6 単元を通した生徒の様子・変容

- 単元の始めではなかなか新しいことに取り組もうとしない様子が見られたが、一度経験すると抵抗がなくなり、もっとやってみたいと意欲を示すようになった。
- 「次は○色がいいです。」や「○個作ります。」等、自分なりの目当てや見通しをもって取り組むようになった。
- 完成した製品を褒められたり、認められたりすることで、自信や意欲につながった。
- 糸が絡まったり、間違えたりすると困って教員を呼んでいたが、どこが悪いかに気付き、簡単な間違いは自分で直せるようになってきた。
- 自分のペースで周囲の様子に関係なくすぐ声を上げていたが、別のできることをしながら教員が順番に対応するのを待つことができるようになってきた。
- バラ公園の売店への納品では、自分の担当の製品について責任をもって運んでいき納品することができた。売店の店員さんへの挨拶もしっかりできた。値段付けの体験もさせていただき、操作をすぐに覚えて「やりたい。」と積極的に取り組む姿が見られた。

## 中学部 2年 作業学習（布グループ）略案

日 時：令和5年7月20日（木）  
 時 間：10：40～11：50  
 場 所：中学部作業室②（布グループ）  
 指導者：T1 藤田 由起子

### 1 単元名 「たてとく祭に向けて作ろう」

### 2 本時の目標（対象生徒）

- (1) ミシンの正しい扱い方について知ることができる。（知・技）
- (2) 安全に気を付けてミシン縫いをすることができる。（思・判・表等）
- (3) 時間一杯集中して作業に取り組もうとする。（学・人等）

### 3 単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
I・H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めてのことにはなかなか取り組もうとしない。</li> <li>・経験したことには、自信をもって積極的に取り組むことができる。</li> <li>・自信がないときや失敗したときなど、早口でしゃべり続けることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆自分からミシンの飾り縫い模様や糸の色を選ぶことができる。</li> <li>☆「もう少し作りたい。」と意欲的に取り組もうとする。</li> <li>☆困ったときに、自分から教師に聞くことができる。</li> <li>☆製品を完成させ、自信をもつことができる。</li> </ul>

### 4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

- ・ミシンの正しい使い方の手本を示し、安全に気を付けて作業ができるようにする。
- ・ミシンの飾り縫いの見本を示し、興味関心をもつことができるようになる。
- ・その日の作業の終末に、できた製品を発表する機会を設定し、次時への意欲付けにする。
- ・仲間の製品を紹介し、仲間の頑張りに目を向け、自分もやってみたいという気持ちを高めるようになる。
- ・日頃の頑張りやチャレンジしてきたことなどを認め、本人や仲間の前で大いに褒める。
- ・販売会のお客さんを意識して、丁寧な製品作りができるようになる。

### 5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
10：40	1始まりの挨拶  2今日の仕事を知る  3ファイルに仕事内容と目標を記入する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードに仕事内容を記入しておく。自分で確認して、日誌に記入することができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆自分で目標を立てる能够性を高めることで、いくつか例を挙げる。</li> </ul>
10：50	4作業①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに作業が始められるように、道具を準備しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆糸や飾り縫いの模様が選べるように、見本を準備しておく。</li> <li>☆出来たことを認め、褒める。</li> </ul>
11：10	5休憩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水分補給やトイレなどを済ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆困ったときは、教師に声をかけるよう言葉掛けする。</li> </ul>

11：20	6 作業②	・集中して作業できるようにする。	☆集中できるように、過度な支援はしないようにする。
11：35	7 ファイルに振り返りを記入する	・作業内容を教師と一緒に振り返り、日誌に記入する。 ・仲間の製品を見合う。	☆振り返りをしながら、良かった点、頑張った点を認め、称賛する。 ☆仲間の作った製品を紹介し、自分も頑張ろうという気持ちをもつことができるようになる。
11：45	8 掃除をする	・仲間と協力して、掃除をする。	
11：50	9 終わりの挨拶		

## 6 単元を通した生徒の様子・変容

- ・対象生徒は、布班を第1希望に選び、初めての布班での作業学習である。始めは不安そうで自信がなさそうな様子であったが、いちごパックのふち縫い、コースターのなみ縫いと少しづつ内容をステップアップさせ、達成感や満足感を得られるようにしてきた。徐々に「もっと作りたい。」「次はこの色で縫いたい。」と意欲を言葉で表すようになってきた。
- ・授業の振り返りで、仲間の製品を紹介すると、「すごいなあ。」「○○さん、さすがだ～。」など、友達の製品や頑張りを素直に称賛する様子も見られるようになった。「次（は、自分の製品が紹介されるように）頑張ろう。」という発言もあった。
- ・手縫いがとても上達してきたので、7月からミシンの練習を始め、さらしの布巾の制作を行った。始めは怖がる様子も見られたが、教師の手本を見て、直線縫いの練習から始めた。操作が丁寧なので、あらかじめ引いた線の上をまっすぐに縫うことができた。返し縫いも練習し、時々忘れることがあるが、教師が言葉掛けすることで上手に縫えるようになってきた。飾り縫いにも挑戦し、自分で糸や模様を選んで縫うことができた。曲がってきたときや端まで縫えなかつたときなど、押さえの端を見て縫う、押さえの端に布が来たらミシンを一旦止める、など教師と一緒に一つ一つ確認を行った。うまく縫えたときは、大いに褒めることで達成感を得られるようにした。
- ・1学期最後の作業が終わると、「2学期は、ここからだな。」と制作途中の布巾を見ながら言ったり、「先生、2学期も頑張りましょうね！」と自分から教師に声を掛けてきたりと、これまでにはなかった様子が見られた。

中学部 I . H グループまとめ	対象児童生徒： I . H
研究メンバー	小野美賀子・藤田由起子・佐藤知子

### 1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫

- ・ミシンの正しい使い方の手本を示し、安全に気を付けて作業ができるようにする。
- ・ミシンの飾り縫いの見本を示し、興味関心をもてるようにする。
- ・その日の作業の終末に、できた製品を発表する機会を設定し、次時への意欲付けにする。
- ・仲間の製品を紹介し、仲間の頑張りに目を向け、自分もやってみたいという気持ちを高めるようにする。
- ・日頃の頑張りやチャレンジしてきたことなどを認め、本人や仲間の前で大いに褒める。
- ・販売会のお客さんを意識して、丁寧な製品作りができるようにする。
- ・やりたいと希望した係となるべくかなえられるようにする。
- ・負担感を減らせるように、友達と一緒に取り組めるようにする。
- ・目標をもって取り組めるように頑張りカードを用意する。自己評価をして振り返り、次時につなげられるようにする。
- ・相手意識をもてるよう、家族に招待状を書く時間を設定したり、保護者に応援メッセージを依頼したりする。



### 2 対象生徒の学びがどのように変わったか？

良かった点	課題点
<p>・少しずつ内容をステップアップしていくと、徐々に「もっと作りたい。」「次はこの色で縫いたい。」と意欲を言葉で表すようになってきた。</p> <p>・授業の振り返りで、仲間の製品を紹介すると、「すごいなあ。」と友達の製品や頑張りを素直に称賛する様子が見られた。「次（は、自分の製品が紹介されるように）頑張ろう。」という発言もあった。</p> <p>・好きな友達と一緒に、やりたい係をすることになり、毎回意欲的に活動に取り組むことができた。</p> <p>・教師の顔を見ながら、「がんばります。」と自分から言うことが多かった。また、「聞こえましたか。」と教師に聞いたり、「がんばりました。」「校長先生、楽しかったです。」と自分から伝えたりすることが増えた。</p>	<p>・まだ、自分に自信がもてずに、薦めても躊躇ことがある。</p> <p>・自分のことが中心となり、全体の場でもすぐに教師に声を掛けて確認しようとすることがある。</p>



### 3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点

- ・自分でできる場、教材の工夫をさらに行い、自分で行う機会をさらに増やしていきたい。
- ・リーダーとなる場面を増やしていきたい。

中学部 1年B組 国語科 指導案

日 時：令和5年9月27日（水）  
 時 間：9:40～10:30  
 場 所：中学部A B組教室  
 指導者：T1 柴崎 修

1 単元名 「たてとく祭の招待状を書こう」

2 本時の目標（対象生徒）

- (1) 文字の形に注意しながら、日付、中学部の作品展示と作業販売会を付け加えて、招待状を書くことができる。（知・技）
- (2) 初めに書いた文章を読み、招待状に付け加えたい内容に気付いて、招待状に書き加える内容をまとめることができる。（思・判・表等）
- (3) 時と場に応じた適切な手紙を書こうとする。（学・人等）

3 単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
S. T	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を見て話したり聞いたりでき、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。</li> <li>・間違いを正したり、相手を意識した表現で文章を書いたりすることに慣れていない。</li> <li>・言葉には意味による語句のまとまりがあることを理解しており、語彙が豊かである。</li> <li>・書いた文章の通りに音読することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆招待状に欠かせない部分に気付いて、話そうとする。</li> <li>☆相手や目的を意識した表現で文章を書こうとする。</li> <li>☆内容のまとまりで文章を構成することができる。</li> <li>☆書いた招待状を必要な内容が書かれていることに注意しながら読もうとする。</li> </ul>

4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

- ・初めての「たてとく祭」で、頑張っている姿や活動を見てもらいたいという本人の気持ちを書く内容に組み入れながら、招待状作りに取り組んでいく。
- ・行事や手紙を送る相手を決めて、「いつ」「どこで」「なにを」「どうする」の内容ごとに書くこと考えながら招待状作りを進めていく。
- ・必要な内容に気付いたり書こうとしたりしたら称賛するなど、認め合えるような場面を作っていく。

5 展開（第2時／全3時間）

時刻	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
9:40	1始まりのあいさつをする。	・今日の活動を確認し見通しをもつ。  「たてとく祭の招待状を作ろう」	・見に来る人が楽しみになるような招待状を作ることを確かめる。
9:43	2伝える内容を考える。	・初めに書いた文章を読む。 ・初めに書いた招待状に付け加える内容を考えていく。 「いつ」 「どこで」 「なにを」 「どうする」	☆内容を確認しながら学習プリントにまとめていく。

9：53	3まとめた内容を入れて、招待状を書く。	・最初に書いた招待状に、今日確認した内容を加えて、新しく招待状を書く。	☆付け加える内容が入っているか確認する。
10：15	4完成した招待状を読む。	・4つの項目について書いてあることを確認してから、完成した新しい招待状を読む。	☆見直しの視点や確認した内容に注目しながら読んでいく。
10：25	5終わりの挨拶をする。	・完成した新しい招待状で母親、家族にたてとく祭の内容が伝わることを称賛し、終わりの挨拶をする。	

## 6 単元を通した生徒の様子・変容

- ・たてとく祭は、本生徒にとって初めての経験であり、頑張っていることを親に見てもらいたいという気持ちが強くあった。そこで、「たてとく祭の招待状」を書いて親に渡すことで、日頃の作業学習の頑張りを伝えながら、情報を整理して目的に応じた文章を書くことを目標とした。
- ・書く内容を教師と話し合い、「いつ」「どこで」「なにを」「どうする」によって内容を分けてまとめる活動を単元の中で繰り返し行つたことで、情報を整理した招待状を書くことが必要だということに、生徒自身気付くことができた。
- ・この学習の後、必要なことを文章にする前に、「いつ」「どこで」「なにを」「どうする」を箇条書きにしてノートに書き出し、書く内容を確かめようとする姿が見られるようになった。また、箇条書きにした内容を生徒が自分でつなげていき、作文を書くようになってきた。

## 中学部 A B組 生活単元学習 略案

日 時：令和5年10月16日（月）  
 時 間：10：35～11：25  
 場 所：中学部A B組教室  
 指導者：T1 菊池 富貴

### 1 単元名 「将来の自分について考えよう」

#### 2 本時の目標

- (1) 自分の長所や得意なことについて知ることができる。（知・技）
- (2) 自分の良いところや友達の良いところを考えて表現することができる。（思・判・表等）
- (3) 友達の話を最後まで聞いたり、自分の考えを進んで発表したりしようとする（学・人等）

#### 3 単元での生徒の実態

対象生徒	単元での実態（予想される姿・課題等）	期待される主体的に活動する姿
S・T	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問に答えることができる。</li> <li>・興味関心のある話題（鉄道の話）になると夢中で話し続ける。</li> <li>・自分から友達に関わることができる。</li> <li>・自分の将来の夢について、本人は鉄道関係の仕事に興味をもっているが、働くことについては具体的に考えていないようである。</li> </ul>	<p>☆友達の良さを自分の言葉で表現しようとする。</p> <p>☆自分の良さに気付き、今後の目標を決めることができる。</p>

#### 4 主体的に活動するための支援と手立ての工夫

- ・自分の好きなことに目を向けるだけでなく、友達の良さを認め合うことで、客観的な自分の良さやこれまでの目標に目を向けられるようにする。
- ・友達の良いところを考えて発表する場面では、生徒のこれまでの学習活動を振り返るための写真や様子を表したイラストカードを活用する。
- ・自分の考えがまとまらない場合は、選択肢を提示し、自分で選ぶことができるようする。
- ・授業構成では、活動に集中できるように、書く、発表するなど場面を区切って行う。

#### 5 本時の展開

時間	活動内容	・指導上の留意点	主体的に活動するための支援と手立て
10：35	1始まりの挨拶  2授業の流れを知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容が分かるように、本時の流れをホワイトボードに板書する。</li> <li>・見通しをもって学習に臨めるように、今後の学習計画も提示する。</li> </ul>	<p>☆前時のこと振り返られるように、自己PRカードを手元に準備するように促す。</p>
10：40	3友達の良いところをさがそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分以外の二人の生徒の良いところを探し、プリントに書き出すように指示する。</li> <li>・文字を書くことが難しい生徒には、イラストカードを選択し、言葉をなぞり書きするようにする。</li> </ul>	<p>☆自分以外の二人の良いところを見つけることができるよう、写真入りのプリントを渡す。</p> <p>☆友達の良いところをできるだけたくさん挙げられるように、写真や性格を表す視覚的なカードを提示する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の頑張りを認めながら良いところを書き出す（写真やイラストを見て良いところを書き出す）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習活動の中から頑張っている姿を見つけられるように促す。</li> <li>良いところは、性格面、学校で頑張っている姿などから少なくとも二つ挙げるようにする。</li> </ul>	☆友達の良いところを出せるよう、生徒とやり取りしながら、これまでの学習活動場面を思い起こせるようにする。
11:05	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の良いところを発表しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の方を見て発表するように促す。</li> <li>友達の良いところをみんなで共有できるように、書いたり選んだりしたものをホワイトボードに貼り出す。</li> </ul>	☆発表の意欲付けのために、生徒が出した意見を取り上げ、ホワイトボードに提示するとともに、友達の良いところをみんなで認め合えるようにする。
11:15	<p>5 友達が見つけてくれた自分の良さについて感じたことを発表しよう</p> <p>6 次時の学習内容を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達が見つけてくれた自分の良いところを見て、感じたことやこれから頑張りたいことなどを発表する。</li> </ul>	☆生徒が発表したことを受け止め、励ましの言葉掛けを行い、今後の意欲付けをする。
11:25	7 終わりの挨拶		

## 6 単元を通した生徒の様子・変容

- パワーポイントなど視覚的支援を活用したことで、大人料金や成人年齢などのクイズ問題に興味をもって取り組むことができた。日常生活の会話でも「18歳で大人になる。」などと話題にするようになった。
- 大人と子どもの違いでは、身近な大人について参考にすることで仕事、生活、言葉遣いなど、社会人になるために必要なことも踏まえて考えることができた。
- 自己PRカード作成を通して、自分の好きなことを嬉しそうに話すことが増え、いつも電車の話題が多かったのが、友達と好きな音楽や土日の過ごし方などについて会話をするようになった。
- 友達の良いところを生活の中でも話題にすることによって、「○○くん、ありがとう。」などと感謝の気持ちを伝えられることができるようになった。
- 教師と生徒という一対一の会話から、友達同士への会話へと広がってきた。
- 自分の将来の夢について、なりたい職業や生活の目標などを伝えることができるようになった。

中学部S・Tグループまとめ	対象生徒：S・T
研究メンバー	柴崎 修、菊池 富貴

### 1 主体的に活動するために行った支援と手立ての工夫

- ・本人にとって頑張っている姿や活動を見てもらいたいという本人の気持ちを書く内容に組み入れながら、文章作りに取り組めるようにする。
- ・文章を書く場合は、「いつ」「どこで」「なにを」「どうする」など項目を提示し、伝えることを考えながら文章作りを進めていく。
- ・自分の考えがまとまらない場合は、選択肢を提示し、自分で選ぶことができるようとする。また、学習活動を振り返るための写真や様子を表したイラストカードを活用する。
- ・必要な内容に気づき、書き加えることを称賛するなど、認め合えるような場面を作っていく。
- ・授業構成では、活動に集中できるように、書く、発表するなど場面を区切って行う。
- ・自分の好きなことに目を向けるだけでなく、友達の良さを認め合うことで、客観的な自分の良さやこれまでの目標に目を向けられるようにする。



### 2 対象生徒の学びがどのように変わったか？

良かった点	課題点
<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつ」「どこで」「なにを」「どうする」などの項目を提示したことによって、内容を意識しながら文章作りに取り組むことができた。</li> <li>・視覚的教材を提示することによって、学習に興味や意欲をもって取り組むことができた。</li> <li>・友達の興味関心に目を向けるようにしたことで、教師と一対一の会話から、友達同士の会話へと広がってきた。</li> <li>・友達から良いところをたくさん見つけてもらい、嬉しそうにして、それが本人の自信にもつながっていた。</li> </ul>	<p>課題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自信のないことや興味関心の薄いことには、まだ学習意欲の低下が見られるときがある。</li> <li>・文章を書くときに、思ったことをそのまま書くので、時系列や起承転結に沿って作文を書く学習を積み上げていけるとよい。</li> </ul>



### 3 最終年度「主体的に活動する姿」に向け、工夫していきたい点、生かしていきたい点、試してみたい点

- ・本人の自信につながることをたくさん経験できるようにしていく。
- ・できる！わかる！という達成感を味わうことができる活動を吟味していく。
- ・正しい言葉遣いや簡単な計算など、日常生活で実際に使う事柄の習得を目指す。
- ・高等部進学という先のことを見通し、基本的な学習態度、人との関わり方、集団活動のマナーなどについて身に付けることができるようにしていく。